

SMBCクラウドサインの締結プロセス

送信者側



1 書類をアップロード

PDF化した書類をアップロード

2 宛先入力

書類を送信する宛先情報を入力

- 連絡帳から引き出すことも可能
- 複数名を設定、CCすることも可能
(設定した順番に書類が届き、最終受信者が「決裁者」となります)

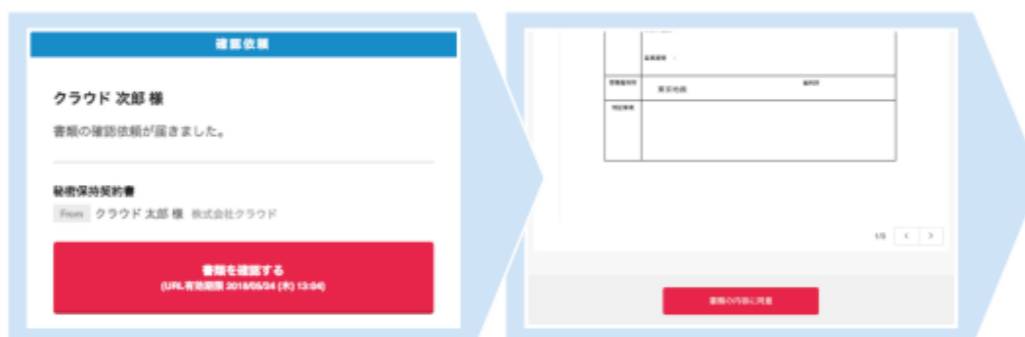
3 帳票作成

書類の中に署名欄や、チェックボックスなどを必要に応じて設置

4 送信

送信ボタンをクリック

受信者側



1 メールで受信

メールで契約書確認依頼を受信

2 契約書確認・合意

契約書を確認し、内容に問題がなければ「合意する」ボタンをクリック。契約締結完了。



合意締結後の最終ステップ

締結した書類は、送信者・受信者に自動でメールにて届けられます。

(クラウドサイン上にも自動で保管されます)

【参考】本人性・権限者確認方法 一例

- ①書面でメールアドレス所有者が契約締結権限者であることを事前確認
- ②事前登録フォームにより相手方の権限者の役職・氏名、メールアドレス、担当部署等を管理、
- ③契約書中に締結権限の表明・保証条項を追加
- ④一定の役職者以上のメールアドレスのみ使用を認め名刺情報と照合
- ⑤代表取締役のメールアドレス以外での締結禁止 など

※ご参考＜弊社合弁パートナー 弁護士ドットコム社のメディア記事＞

◆電子契約のメール認証と無権代理リスク対策

<https://www.cloudsign.jp/media/20200309-mailninsyou-mukendairi/>

◆代表者以外の従業員による押印・電子署名の有効性

<https://www.cloudsign.jp/media/20190311-denshikeiyaku-signer/>

SMBCでの導入事例

2. SMBCクラウドサイン導入事例 ～サービス概要



- 「SMBCクラウドサイン」は、契約書をアップロードし、相手方が承認するだけで契約を結ぶことができるサービス
- 契約締結時に相手方となる書類の受信者は、「SMBCクラウドサイン」に登録する必要なし

取引は「印鑑レス」で「ペーパーレス」へ

契約締結から管理まで可能な
クラウド型の電子契約サービス



- SMBCでは、外部業者との契約締結数の多い本部を対象として8月より順次導入（対顧客取引は除く）

SMBCでの導入事例

2. SMBCクラウドサイン導入事例 ～直面した課題と対応策

- SMBCクラウドサイン導入に際して、主に以下のリスクを課題と考え、対応策を検討

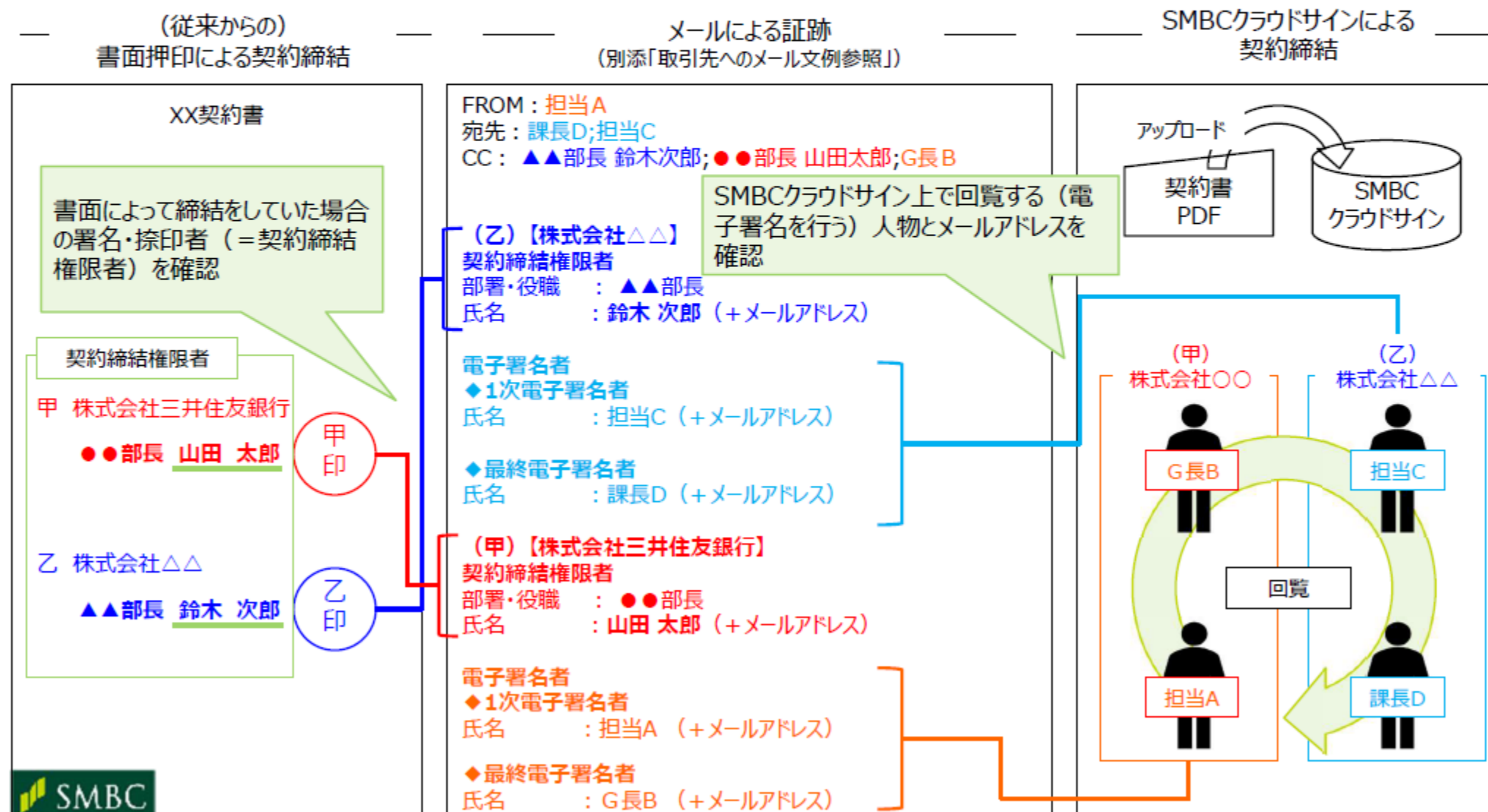
	課題	対応策
無権限者による なりすましリスク	<ul style="list-style-type: none"> ● メールアドレスを利用した非対面の契約手続となるため、無権限者が契約当事者になりすまして契約を締結するリスクが、書面押印対比で高いと認識。 ● 無権限者が当事者になりすまして契約を締結したものとして紛争となった場合、当該当事者に契約の法効果が帰属することを個々の事実を積み上げて立証する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 契約相手方の本人性と権限有無、電子契約による契約締結への同意確認のため、SMBCクラウドサインにおける契約手続とは別に、権限者を宛先等に含めたメール送受信を証跡として残す。
契約否認による 経済的リスク	<ul style="list-style-type: none"> ● 無権限者によるなりすまし等を理由として、契約の不成立を主張された場合に、経済的損失発生リスクがあると認識。 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 契約の不成立等を主張されるリスクや損害のコントロールを容易とするために、SMBCクラウドサインを利用可能な契約類型を行内で制定。 (ex.秘密保持契約、当行が役務の提供を受ける契約 等)

SMBCでの導入事例



2. SMBCクラウドサイン導入事例 ～参考：メール証跡

- 従来書面押印の実務では、紙書面に付された印影が本人の印章による印影と一致する場合、その文書が本人の意思で作成された文書であり、文書の成立が真正であることが推定されていた
- SMBCクラウドサインによる電子契約では、メールアドレスを利用した非対面の契約手続となり、上記の「真正な成立」の推定効は得られないと解されるため、メール送受信を証跡として残し、契約文書の成立を否認されないようにする



Copyright © 2020 Sumitomo Mitsui Banking Corporation. All Rights Reserved

SMBCでの導入事例



2. SMBCクラウドサイン導入事例 ～導入の見込み効果

- SMBCクラウドサインの導入効果として、①押印事務負担軽減、②印紙代軽減、③保管場所軽減を見込む
- SMBC本店各部への導入による効果の試算は以下の通り（一定の前提で試算）



押印事務負担の軽減

1.4千時間～/年

- 印刷・製本・押印などの行内プロセスがオンライン上で完結するため、関連する事務負担が軽減。1契約当たり△20分の作業時間削減と想定。
- 上記の押印事務負担軽減に加えて、契約書の郵送に伴う往復時間も削減可能。



印紙代の軽減

23百万円～/年

- 電子契約では印紙代が不要となるため、コスト削減が可能。
- 印紙代の軽減に加えて、印刷費、輸送費、保管費や、契約締結プロセス効率化による間接的な人件費削減も可能。



保管場所の軽減

段ボール2箱～/年

- デジタルデータで契約書を管理するため、契約締結後の紙原本保管が不要となり、保管場所が軽減。
- SMBCクラウドサイン上でも検索・閲覧が可能となるため、原本確認のための検索時間も削減可能。

